

チーム町田みらいは

無所属 元東京都議会議員

おくざわ
たかひろ
高広

さんを応援しています



継承して発展
～町田をいちばんのまちに～

▶ 2022年町田市長選挙立候補

▶ 障がい福祉施設 代表

▶ 南大谷在住、43歳



「おくざわ高広」さんの **想い** を紹介します

2022年の町田市長選挙に立候補してから4年。無所属で活動进行しながら、町田市内で障がい福祉施設を立ち上げました。町田に暮らす一人として、都市の利便性と自然の豊かさが共存し、スポーツも文化も楽しめる、町田の魅力をもっともっと引き出したい。その想いは日々強まっています。

一方で、人口減少や高齢化、産業の伸び悩みや市の財政悪化などの課題への対応は遅れています。先人の築いてきた町田の良い部分を引き継ぐとともに、時代の変化に合わせて新しい取組にも挑戦し、発展させていくリーダーが必要です。

継承と発展。43万市民それぞれが幸せを実感し、一人ひとりが町田がいちばんと誇りに思える町田の未来をつくるために、全力を尽くしていきます。



「おくざわ高広」さんの **プロフィール** を紹介します

1982年生まれ、慶應義塾大学法学部政治学科を卒業

高校教師の両親の次男として生まれる。奨学金を借りて、慶應義塾大学法学部政治学科に進学。学生時代は、体育会野球部で全国大会準優勝。

不動産デベロッパー、学習塾での社会人生活から政治の道へ

卒業後は、三菱地所(株)にて土地購入から建設・販売までを学んだ後に、学習塾教室長として不登校児童・生徒の支援を行う。教え子の自殺未遂をきっかけに「誰もが生まれてきてよかったと思える社会」を目指し、政治の道へ。

東京都議会議員を経て、2022年町田市長選挙に立候補

衆議院議員西村やすとし氏(元経済産業大臣)の公設秘書を経て、東京都議会議員に。会派「無所属 東京みらい」幹事長や都市整備委員会副委員長などを務め、コロナ協力金などを独自に提案。2022年町田市長選挙に立候補。

町田市内で障がい福祉施設を設立、地域活動に参加

現在は、障がい者の働く支援を行う施設(就労継続支援B型)を立ち上げ、経営者として、現場で働く一人として、障がい者のQOL(生活の質)向上、高齢者向けの買い物支援、農福連携による特産品開発などを行う。

町田市南大谷在住、楽しみはスポーツ観戦とクラフトビール

妻と2匹の犬と暮らす。休日は友人とFC町田ゼルビアやASVペスカドーラ町田の応援にいくのが楽しみ。好きなものはスイーツとクラフトビール。



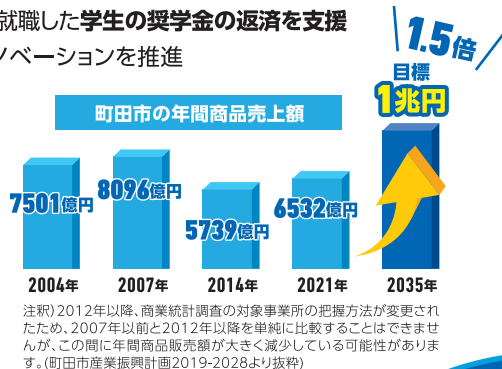
機関紙：おくサバ通信Vol.9 発行元：チーム町田みらい

「チーム町田みらい」は、より良い町田市を実現するために立ち上がった有志のグループです。また、この機関紙は、町田市の市政運営のあり方、今後の市政のあるべき姿などとともに、チーム町田みらいの活動について、市民の皆様にお知らせし、より良い町田市の発展に資することを目的に発行しています。これからの未来の町田市をチーム町田みらいを通して一緒に考えてみませんか？

興味がある方はお気軽にご連絡ください。ご意見、ご感想もお待ちしております！ 連絡先：team.machida.mirai@gmail.com

重点目標1 地域経済を 1.5倍に↑

- 地域経済の起爆剤となる”まちなか”スタジアム&アリーナ構想の検討
- 町田駅前再開発にあわせて、ITやヘルスケアなどの成長産業を誘致
- 市民雇用減税・町田版ハローワーク・リスキリングで市内雇用と所得向上を実現
- 町田市内で医療・介護・福祉・保育など特定分野に就職した学生の奨学金の返済を支援
- 渋滞解消や災害対策などの社会課題解決型イノベーションを推進
- デジタル地域通貨を発行し、商店街を活性化
- 町田の誇る歴史や文化の更なる魅力化とアニメやゲームなどのサブカルチャーの育成
- 夜間経済の活性化と治安の向上を両立するための専門部署を設置
- 多摩都市モノレールの路線見直しで、早期延伸・工事費削減・速達性向上へ
- 市内外の人が自然と触れ合い、楽しむことのできる里山環境の保全と活用



町田市の年間商品販売額は、2007年をピークに減少し、法人税収も2007年の43億円から2021年には30億円に落ち込んでいます。商都まちだの強い経済を取り戻し、手取り所得とゆとり時間を生み出す、暮らしが**いちばん**うおうまちを目指します！

町田市は2023年に0-4歳の子ども転入超過数が全国1位になりました。子育て世代に選ばれるまちとして、待機児童・待機学童0、いじめ・不登校0に力を入れるとともに、0円子育てを推進し、こどもを**いちばん**生み育てやすいまちを目指します！

重点目標2 子育て 5つのゼロ！

- 新しい学校づくり(学校統廃合)の相談窓口を設置し、通学路の安全や災害対策なども含めて、こどもの目線で総点検し、適切に見直し
- 現小学校区に1つの学童を維持。夏休みの昼食提供を本格実施するとともに、学校給食を充実
- 国際バカロレアやイエナプランなどの国際性や探究心を育む先進教育を導入
- 小学校低学年にサポート教員を手厚く配置し、基礎学力を底上げ
- 塾や習い事など子育て・教育に使えるクーポンを発行し、体験格差を解消
- AIを活用した早期発見と専門家の早期介入により、いじめ重大事態をゼロに
- フリースクール認証やオンライン登校など、全てのこどもに学びと居場所を
- 障がい児や発達グレーな子が早期に適切な療育に繋がる相談支援体制を強化
- 送迎保育ステーションの新設や空き定員の活用で、待機児童を解消
- こども誰でも通園制度やベビーシッター補助などの新しい制度を積極的に導入
- 子育てアプリを強化し、妊娠出産期から高校卒業までの手続きをスマホで完結
- 児童相談所・子ども家庭センター・保育施設・学校の連携で児童虐待を未然防止
- 都の取組に合わせ、第一子保育料や学用品費などの無償化を推進



市内10ヶ所で
タウンMTGを開催

重点目標3 健康寿命を 1年延伸↑

町田市の高齢化率は都内平均を上回り、一方で、医療・介護・福祉の働き手不足は大きな課題です。人を育て、福祉の町田を取り戻し、年を重ねても、障がいがあっても、誰もが健康に**いちばん**安心して住み続けられるまちを目指します。

- 地域医療の核として、町田市民病院を機能強化し、市民の安心を醸成
- 救急搬送受け入れ施設の開設や周辺市との連携で、救急到着時間を短縮
- 大学等との連携や資格取得支援、処遇改善により、医療・福祉・介護人材を育成・確保
- 慣れ親しんだ地域で住み続けられるように、在宅医療や訪問看護・介護を推進
- 未病やフレイル予防・介護予防に取り組む企業や町会・自治会などを支援
- 年齢に応じた適切な性教育や妊娠期から更年期までの健康づくりを後押し
- 公共施設のチャレンジ雇用や企業の作業委託推進で障がい者の働く場を拡充
- 重度障がい者の住まいや居場所を拡充し、親なき後の安心を確保
- 正しい理解と実践を広め、認知症とともに生きるまちづくりを推進
- 待機老人ホームの解消に向けた取組や終活相談の取組を強化
- ヤングケアラーをはじめ、家庭内で介護を行う方々の相談支援を強化
- 乗合バスや自動運転バス、シェアカードなど、多様な手段で移動を支援
- 性の多様性への理解を深め、LGBTQ+フレンドリーなまちづくりを推進



代表を務める福祉施設の
利用者さんと記念撮影

町田を いちばんのまちに

43万とおりの幸せがかなう
市民一人ひとりが
町田が**いちばん**と誇れるまち

町田市民アンケートでは、町田市が「暮らしやすい」「やや暮らしやすい」と答えた人の割合が88%と高い評価を得ています。さらに生活者目線のまちづくりを進め、一人ひとりの声が届き、幸せをいちばん実感できるまちを目指します。

重点目標4 暮らしの 満足度 90%へ↑

- ゴミ袋の無償配布で家計を応援。国や都の物価高対策をスピーディに実施
- 外国人との共生と不法な滞在・不動産取得への規制を両立する専門部署を設置
- ペットに優しいまち条例を策定し、相談窓口の設置や災害時の避難環境整備を推進
- 住民主体の団地再生・コミュニティ活性化をURやJKKと連携して推進
- 災害時にもライフライン(電気・ガス・水道・通信)を確保
- ボール遊びのできる公園づくり、トイレや照明なども含めたスポーツ環境の整備を推進
- コンテナ型喫煙所やスマートゴミ箱の設置により、駅周辺の美化を推進
- SNS犯罪に若者が巻き込まれない環境づくり、特殊詐欺・トクリュウ対策を強化
- 芹が谷公園の(仮称)国際工芸美術館計画は、一旦立ち止まりゼロベースで議論を再開
- 会計年度任用職員制度の改善や職員全体の専門性向上で、市役所サービスの質を向上
- 民間からデジタル人材を登用し、市民に便利で、業務に無駄のない市役所の働き方改革を推進
- 基金を活用した町田ファンドを創設し、運用益を市民に還元

「おくざわ高広」さんの111の政策はホームページをご覧ください▶

